浜松協働学舎

支える会だより

〒433-8108　浜松市北区根洗町 681 番地の 5　☎053-430-0596
浜松協働学舎を支える会　代表　荻野英子

2020.12.20
No.67

こもれびの家　新築移転します!!

2020 年 10 月 8 日(木)起工祝別式を行いました。

こもれびの家新築工事
～より快適で安心できる活動場所を～

こもれびの家　施設長　上甲俊介

現在のこもれびの家（旧第二青葉の家）は、根洗町の皆様に暖かく迎え入れていただき、１９９３年に建てられました。当時は土地もお金もないなか、先輩諸氏の「障がいを持つ仲間たちのための居場所を作るんだ！」という強い思いで、イベントなどを開催しては必死で資金調達して、施設の建設を実現しました。

その施設も二十数年を経て老朽化が進み、決して快適な場所とは言えなくなってきました。２０１８年８月より本格的に新築移転のプロジェクトが動き出しました。現在の場所から少し北にある土地を約９００坪購入し、新施設の設計が始まりました。設計には延べ数十時間の打合せを重ね、２０２０年 10 月に着工に至っています。まだ建物の姿は見えませんが、徐々に新施設の形が表れてくると楽しみにしています。

計画を進めていく上で、「高齢を迎えるご利用者のための設計」に特に配慮し、「平屋作り」にこだわりました。これまでは二階建て構造で、急な階段を作業の材料を上げ下げしなくてはなりませんでしたが、これからは安全に材料を運べます。また、廊下は約３メートルの幅でゆったりとしており、一番長い直線は約 30 メートルあるため、雨の日でも手すりを持って安心して屋内散歩が出来ます。生活室は、各クラスに更衣室やキッチンを設置するため、合計すると今の約二倍の面積となります。作業室も広々としており、「快適な生活空間や作業空間の実現」を目指しています。

店舗エリアも格段に大きくなります。焼き菓子や陶器の展示数も増やし、「浜松協働学舎全体のアンテナショップ」として生まれ変わります。イートインスペースでは、ＢＧＭを流し、外の景色を眺めながら名物のシフォンケーキとコーヒーなどを優雅に楽しんでいただけます。また、地域との交流の場としても一役を担えればと思います。

新型コロナウイルスへの対応に追われる昨今ですが、こもれびの家の新築移転工事は着実に進行中しています。２０２１年初秋に迎える新築移転オープンにぜひご期待ください。

日本全国で感染症予防対策が行われています。浜松協働学舎でも様々な取り組みをしておりますが、ご利用者と共に行っているいくつかをご紹介いたします。

事業所内には感染予防啓発ポスターなどを掲示しています。

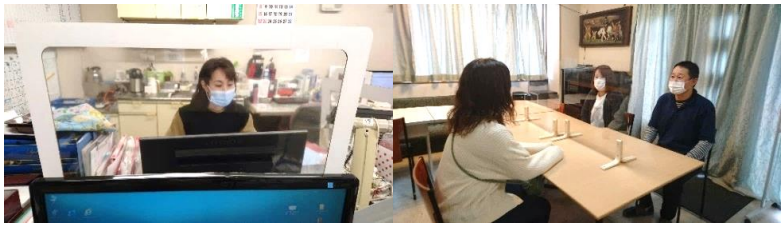
生活介護事業所では登所時や送迎バス乗車時に、障害者支援施設やグループホームでは朝や夜などに検温をしています。また、施設内に入る方たちにも検温や消毒をお願いしています。

食事の時以外はマスクをして過ごすようにしています。

現在、建物内に入る前に濃度７０％以上のアルコールを用いての消毒をお願いしています。今後も継続していきますので、ご協力をお願いいたします。
手や指についたウイルスは洗い流すことが最も重要です。トイレに行った後や食事の前には特に丁寧に洗っていただきますよう、お願いいたします。

職員の出勤後やご利用者が帰宅した後、また休憩時間など、随時建物内をアルコール消毒しています。また換気をしたり、空気清浄機を利用したりと事業所内の空気を入れ替えるようにしています。

食事の時はパーテーションを使ったり、向かい合わせになったりしないように配慮しています。食事介助では支援者はフェイスシールド等を利用して、ご利用者に飛沫等が飛ばないようにしています。



浜松協働学舎の各事業所で面談を行う際には、マスクをしたうえで適切な距離をとるか、パーテーションを利用するなどしています。事務所内でもパーテーションを利用したり、受話器の受け渡しの時など必要に応じて消毒をしたりしています。空気清浄機は事業所内の各所に置くようにしています。

コロナ禍で初心に立ち返る

坂中夕也（ラポール根洗）

これまで当たり前だと思っていたことが当たり前にできなくなり、出来ていたことが出来なくなると、人は何とかして当たり前の生活に戻ろうとする。当たり前の生活にすぐに戻れないと、人は強い不安を感じる。新型コロナウイルスが流行し始めたころに、そんな風に思っていた。

障がいを持つ方たちはどのように感じているのだろうか、不安が増大することはないだろうか、パニックが繰り返されてしまうのではないか。数多くの支援者が言いしれない不安を抱えていたように思う。

しかし、ご利用者たちは様々な制約を前向きに受け入れていた。そして、ご利用者が訴えたのは「できないならどうするの」「次はどうするの」「こうなったら面白そう」ということであった。

できないことを受け入れてもらうためにはどうすれば良いだろうかということに力を注ぎ、しばらくの間我慢をすれば元の生活に戻るはずだと考えていた支援者は少なからずいたと思う。支援をする側は、元の生活に戻ろうということを考え、「できないならどうすれば良いのか」を考えるまでの余裕を持てていなかったのではだろうか。言葉にはしないものの、「新しい生活を考えないといけないよね」「もっと楽しいことがあるはずだよね」と、ご利用者が積極的に発信していた。

ご利用者の発想をふんだんに受け入れて、支援を見直す大切さを強く感じた。ないなら考えて作ればよい。そんな単純なことに考えが至らずに、ただ慌てふためいていた支援者としてのふるまいを反省した。

新型コロナウイルスとはこれからも付き合っていかなければならないだろうし、今後、未知のウイルスが発生するかもしれない。私たち支援者は、常にご利用者の要望を真摯に受け止め、それらを実現していくためにはどうすれば良いのかを考えて実践していくことが基本である。どのような状況になろうとも、常に前向きに職務に取り組んでいく。２０２０年度の一年は支援の在り方を再確認できた良い期間だったと捉えている。

夏祭りが出来なかったので、規模を縮小して模擬縁日♪

静岡県作業連合会・わ　第29回表彰大会

青葉の家　星　勇輝（大会実行委員長）

9月25日（金）浜北総合体育館にて表彰大会が行われました。例年は表彰大会をした後にレクリエーションが行われますが、今年は新型コロナウイルスの影響を考え、表彰大会のみの開催となりました。

西部地区の45箇所の作業所が集い、日々作業に勤しんできたご利用者をはじめ、施設の運営やご利用者の支援に永年携わった方々、それぞれの地域で作業所を支え地域福祉の向上に寄与された方々の功績を称え、一層の活躍を期するための表彰大会です。

新型コロナウイルス感染症の不安がある中、大勢の方々が集まるということもあり、感染予防対策を十分に行うため、実行委員会では幾度にもわたる打ち合わせを重ねました。また、「例年のようにレクリエーションはできないなら何ができるか」を考えた結果、「各作業所PRタイム」を行うことになりました。PRタイムでは、「各作業所でどんな授産品を作っているのか」「自慢したいこと」など様々なPRが見られ、大変な盛り上がりを見せました。表彰大会では、午前の部約100名、午後の部約100名と、多くの勤続10年、20年、30年、40年の方々が表彰されました。表彰された方々は笑顔で輝かしく見え、表彰大会をして頂いて良かったという意見も多くあがりました。

まだまだ新型コロナウイルスは世界中で流行しています。今回のイベントを通して、こんなに素敵な仲間たちとなら、コロナ禍を一緒に乗り越えていけると強く感じました。今後も知恵を絞って楽しみを見つけていき、更に感染対策をとりつつ日々の暮らしを笑顔にしていきたいと思います。

浜松湖北高校生さんの取材を受けました

根洗作業所　南諭子

取引先のエネジン株式会社の社員が講師をしている授業の一環で、浜松湖北高校3年生の生徒さんから職場の取材を受けました。高校生が将来の就職に向けて企業と直接話を聞く場があることで、やりたいことを見つけるきっかけになると同時に、地元の企業の魅力を地元の人達に知ってもらい、地域活性化に繋げることができる取り組みとのことです。

こうした取り組みの中から将来の福祉の担い手が生まれることを期待して、浜松協働学舎の取り組みについて、紹介をさせていただきました。もちろん仲間の働く姿も見学いただき、福祉の仕事について少しでも理解を深めていただけたと思います。

敬老慰問

新型コロナウイルス感染防止のため、柏原園長と職員に「しまうま倶楽部特製クッキー」を受け取っていただきました。お年寄りにお渡しいただき、皆さんに大変喜んでいただけたようです。

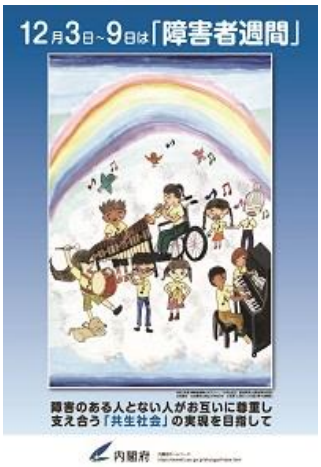
四季彩堂販売会を行いました

こもれびの家　柳瀬滋彦

地域の皆様に浜松協働学舎の仲間たちの生産活動に関心や理解を深めていただくため、今年も「障がい者週間」に近い時期に合わせ、四季彩堂様のご協力を得て有玉本店で販売会を実施しました。開催中、遠州根洗窯の陶器を中心に、こもれびの家のくだものおやつ、しまうま倶

楽部のパン・クッキー・マフィン、工房めいのせんぶれっとやねじれっと等を販売し、ご来場いただいた地域の方にご好評をいただきました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年に比べて規模を縮小しての開催となりましたが、浜松協働学舎の仲間たちの活動をより深く理解していただくことのできた3日間となりました。

障害者週間の啓発事業で授産製品の配布をしました。



研修への参加

浜松協働学舎では毎年いくつもの研修に参加してきました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンラインでの研修会が主流となっています。

静岡県作業所連合会・わ施設長研修

工房だん　掛井直樹

静岡県作業所連合会「わ」の施設長研修会は、今年度はオンライン研修となりました。

最初に、全国手をつなぐ育成会連合会常務理事の又村あおい氏から「ポストコロナ時代の障害福祉サービス」をテーマに基調講演が行われました。Zoomでの研修は、ライブというよりは映像の講義を受けている感覚がありましたが、集中して受講することができました。後半は参加者でのグループ討議形式で「withコロナ」をテーマに情報交換が行われました。Zoomでのグループワークでしたが、実際に研修会に参加をしている安心感がありました。オンライン研修はまだまだ慣れない点が多いのですが、毎回少しずつ工夫をしていくことで有効な研修方法としていきたいと思いました。

静岡県作業所連合会・わ新任職員研修

根洗作業所　並松篤司

今回初めてのオンライン研修を経験しました。講師、参加者の顔をパソコン画面で確認することが出来たので、ある程度の一体感を感じることが出来たと思います。また、講義中は、準備していた紙に意見を書いて画面に映すなど参加者間のコミュニケーションも図れるよう工夫をされていたのがとても良かったと思います。

集合研修とは異なり、職員が顔を合わせる機会を持てなかったり、お互いの自由な情報交換が十分に出来なかったりと、やや物足りなさは感じました。今後、会議や研修の趣旨によって、オンラインか集合研修か、より効果の高い選択ができたらと強く感じました。

浜松協働学舎研修委員会

今年度の浜松協働学舎合同研修会は、必要に応じてzoomの利用を図りながら、ブロックごとの研修を行いました。

準備段階からオンラインでやるためには何をすればよいのかというところから始まりました。どのブロックの実行委員もオンライン研修が初めてであり、いろいろと試行錯誤しながらも一定の研修ができたように思います。

社会福祉法人ひかりの園研修委員会

社会福祉法人ひかりの園では、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、新任者に対して行う基礎研修や、勤務年数に応じて行う初級研修や上級研修などの階層別研修のあり方を検討し、開催してきました。マナー研修など立ち姿や声の大きさなどを講師から直接指導を受ける必要がある研修については集合研修で行い、講義やワークなどオンラインで出来るものはオンラインで行っています。オンラインでコンテンツを十分に伝えるためにはどうすれば良いのか、受講者が負担なく受けるためにはどうすれば良いのかなど、今年度は様々な課題が浮かび上がってきたように感じます。まだまだ手探りの部分はありますが、今後も実りある研修とするために話し合いを継続していきたいと思います。

Zoomを利用しての法人研修委員会

赤い羽根共同募金助成事業

工房ゆう『車いす用リフト付き自動車』１台
いただいた金額　2,325,000 円

赤い羽根共同募金の助成を頂き、「ハイエース　スーパーロングボディ（リフト）」を購入させて頂きました。今まで工房ゆうにはリフト車がなく、送迎時は職員が乗車する方を持ち上げて乗車頂いたり、障害の特性によってはドライブに出かけられない方がいらっしゃったりしていました。リフト車両を購入させて頂いてからは、送迎をはじめ、納品やドライブ等様々な場面で「ハイエース　スーパーロングボディ（リフト）」が大活躍し、皆が乗車することが可能になりました。

工房ゆうのご利用の皆さんの生活の幅が大きく広がり、大変感謝しております。誠にありがとうございました。

根洗町の皆様　浜松協働学舎バザーへのご支援・ご協力ありがとうございました。

浜松協働学舎では、やきものまつり等のイベントの際にバザー販売をしています。収益は福祉を取り巻く厳しい社会情勢の中、浜松協働学舎の大切な運営資金となっております。地元、根洗町の皆様には開設当初より地域をあげてバザー品提供のご協力をいただいております。

収益金に関しましては浜松協働学舎を支える会収入に組み入れ、浜松協働学舎の活動に有効に活用させて頂きます。これからも浜松協働学舎へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

タオルやマスクのご寄付をいただきました!!

全国的に新型コロナウイルスが流行し、浜松協働学舎でも衛生用品の入手が困難になり、感染予防対策に苦心していたところでしたので大変助かりました。ご寄付をいただいたタオルやマスクについては大切に使用させていただき、より一層の安全・安心な施設運営に努めてまいります。これからも予断を許さない状況が続くと思われますが、ご利用者様に安心して過ごしていただき、また支援者も元気いっぱい働いていきたいと思います。本当にありがとうございました。

- **静岡県労働金庫　浜松高台支店　グリーンともの会**
- **一般社団法人職業感染制御研究会様**
- **エネジン株式会社様**
- **静岡県社会福祉協議会様**
- **静岡県ボランティア協会(つながれみんなのキモチ＊プロジェクト)**

浜松協働学舎の手作り製品をぜひご利用ください

新型コロナウイルス感染症の大流行で、世界的な景気後退が叫ばれる中、浜松協働学舎でも事業所の受注作業や手作りクッキーやパン、せんぶれっとなどの自主製品も買い控えやイベントでの販売の機会が減り、収入が激減しています。

生産活動は、浜松協働学舎の福祉サービス事業と同様に、ご利用者の生きがいと社会参加を実現し、また工賃を保証することで、ご利用者の地域生活を支えるきわめて重要な浜松協働学舎の活動です。

授産事業の継続、活性化のために地域の皆様のご協力を切にお願いしたいと思います。ぜひ、浜松協働学舎の手づくり製品・自主製品のご購入にご協力ください。

しまうま倶楽部

バナナケーキ

おやつの定番「バナナ」をケーキにしました。しっとりまろやか、もうお口の中は南国パラダイスです！やっぱりバナナはフルーツの王様ですね。もうおやつの時間が待ちきれません

プレーンクッキー　プレーンケーキ

しまうまこだわりのミルクジャム仕立てで、上品な甘さがなんとも際立ちます。こってり系の味に飽きてしまったあなたに、本物の洗練された愉悦をお届けします。どうぞ心行くまで癒されてください。

皐月堂

せんぶれっと　しょうゆ味

せんぶれっとの新商品として「しょうゆ味」を販売しました。このしょうゆ味は加藤醤油さん(浜松市中区)の醤油や麹などを丁寧に練りこみ、仕上げに醤油をさっと一塗りして、香り高い商品となっております。醤油の持つ風味と生地の持つ甘みとが絡み合い、珠玉の逸品になったと自負しております。

こもれびの家併設ショップをはじめ、浜松市役所内の「チャレンジドショップ・わ」などで販売をしております。お近くにお越しの際は是非ともお立ち寄りください。

しまうま倶楽部のクッキーやパウンドケーキ、そして皐月堂のせんぶれっとは、遠州特産高級赤玉卵『どうまい卵(らん)』を使って作られています。工房めいで注文を承っておりますので、ぜひ一度ご賞味ください。